

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	認可外保育施設児童対策事業	会計	一般会計	事業No.	174	施策順No.	37-020
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-2-5-15-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	子育て支援課		
施策	37 子どもを産み育てやすい環境の充実			事業期間	開始	S47	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	認可外保育施設で夜間の保育を利用している登録児童。						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	認可外保育施設で夜間保育を実施している施設数	1	1	1	1			
	対象をどう変えるか	夜間の保育を利用している登録児童の処遇向上。							
	意図	夜間の保育を利用している登録児童の処遇向上。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		夜間の保育を利用している児童数/夜間の保育を希望している児童数(%)	100	100	100	100	100		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	認可外保育所独自の保育サービスを提供する場合、処遇確保のための補助金を整備していたが、実績はなかった。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>この事業は認可外保育施設に現に入所している要保育児童について、これらの処遇向上を図ることを目的に、保育にかかる経費や職員の健康診断経費等を補助する。</li> <li>飯田市の認可保育所では最長でも午後10時までの保育の実施であり、それ以降の夜間の保育や夜間みの保育を希望するニーズに対応できていない。そこで、認可外保育施設でしかサービスを受けられない登録児童の処遇確保のために、児童の生活費等を補助している。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	夜間の保育を利用している児童の保育に係わる生活費等の補助。	夜間の利用児童数	0
23年度実施計画	夜間の保育を利用している児童の保育に係わる生活費等の補助。(13,880円×6ヶ月)	夜間の利用児童数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金		74		41	(県)認可外保育施設児童処遇向上等事業補助金(1/2)
	起債					
	その他					
	一般財源		74	0	43	
	計(A)		148	0	84	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			0		

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所や幼稚園を利用できない保護者の子育て支援として、認可外保育施設の利便性の向上が求められている。</li> </ul>
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	子どもを育てやすい社会環境の充実	施策の成果指標又はムトス指標	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	飯田市内の認可保育所は最長で10時まで開所しているが、夜間保育は運営されていないため、夜間保育を実施する保育園に対して運営の補助を行うものとしていたが、4年の間に夜間保育を実施した認可外保育所はない。		
	後期に向けた課題	今後夜間保育の実績があれば、適切に補助する必要がある。また、ニーズも把握する必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	夜間保育補助のみならず、職員健康診断費補助も行っていた。補助によって認可外保育所の負担軽減を図った。		
	後期に向けた課題	特になし。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	延長保育の利用時間・利用人数から、市内認可保育所で夜間保育を行うコストに比べ、補助金による助成のほうがコストは少ないものと考えられる。		
	後期に向けた課題	事業費は全て補助金なので削減すべきコストはない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市では行っていない保育サービスを補助することは、多種多様な生活スタイルの子育て家庭を支えることになるため、市の関与は妥当である。		
	後期に向けた課題	市が補助金交付を行うので、関与は適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	主体は市であり、認可外保育所の独自の保育サービスを補助する制度を整備した。しかし現在までに認可保育所にはない保育サービスを実施している認可外保育所はない。		
	後期に向けた課題	夜間保育の実績をもつ認可外保育所があれば、市から申請の案内をし、適切に交付する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	夜間保育を行っている認可外保育所がないため、利用実績はない。		
	後期に向けた課題	現在のところ夜間保育を実施する保育所はないが、今後多様なニーズが増え、夜間保育所の実施が必要となる可能性は考えられる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------